

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

学) 曙学園 あけぼの幼稚園

## 1. 本園の教育目標

◎感謝する子ども（自分が生かされていることに気付き、いのちを大切にする・お互いを認め合う・共感する・譲ったり、分かち合ったりする・自尊心を育む・ものを大切に扱う・ルール、約束を守る・やさし言葉遣いや態度をとる。）

◎自分で考え、工夫しようとする子ども

◎健やかな心身の子どもを育てることを目標とする。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

	課題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	ダブルチェック、ボード・連絡ノートへの用件記入により、確認ミス、報告漏れを防ぐ。
2	資質向上のための研修	リモートなどを活用して、講師を招いての園内研修を実施する。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※詳しい評価項目は別紙自己点検・自己評価表参照

評価項目	評価	取り組み状況・結果
園の教育理念・目標・方針の理解	A	職員全員で園の教育理念、目標、方針について共通理解している。
教育課程と指導計画の作成	A	年度の初めに職員全員で、本園の教育課程の中身について共通理解の場を設け、確認し、各学年の指導計画に反映されている。
環境構成	B	子ども一人ひとりの興味関心に応じて教材を用意したり、幼児側の発信の遊びを保育に取り入れたり、そこから活動を膨らませたりするような環境づくりができていたが、自由遊びで使う玩具を年度の途中で入れ替えて新しい遊びに夢中になれるようにする必要性を感じる。
子ども理解	A	一人一人の発達、特性を観察し理解している。
指導、援助と関わり	A	一人一人の発達、特性に応じて、きめ細やかに関わっている。
特に配慮が必要な幼児への支援	A	支援を要する子どもの個別指導計画を作成し、必要とする支援が出来ている。
保育内容	A	各領域が偏りなく、様々な経験をするように心がけていたが、生き物の飼育が出来ていないクラスもあ

		ったので、来年度は飼育を通して生き物のいのちを身近に感じられるようにする必要がある。
健康や安全への配慮	A	園内を常に衛生に保ち、遊具などの安全点検を定期的に行い、危険な個所などは改修している。
幼児への人権の配慮	A	子どもが傷つくような言葉や態度をとらないように気を付けており、職員間で、共通理解している。また、外国籍の子どもが増えてきているので、宗教的背景を職員間で共通理解し、できるだけ、ニーズに応えられるようにしている。
教師間の連携	A	子どもの様子について教師間で共通理解し関わるようにしている。欠席、遅刻の子どもについてはボードに記載し、共有するようにはしていたが、早退、ケガについては共有できていないことがあった。
資質向上のための研修	B	担任教諭は多くの園外研修に参加し、資質向上に努めているが、学びの情報共有ができていないこともあった。
保護者への対応と家庭支援	A	日々の連絡ノートのやり取りや、懇談会、保育参観などを通して、また、保護者からの子どもについて気になることなど、すぐに対応する様に心がけている。
地域との関わり	A	地域の小学校との交流会が出来、小学校の教諭との子どもの様子の情報交換ができています。また、地域の田んぼのお米の田植えや稲刈りの様子を見学させてもらったり、畑づくりの様子や出来た野菜をいただいたりと交流させてもらっている。

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

##### ●今年度の取り組む課題について

##### 1 教師間の連携について

2 回程確認不足による、バス乗降の連絡ミスがあったが、前年に比べ、減ってきた。次年度も、ダブルチェックと不確かな事項の確認を徹底し、記入間違いやバス乗降の間違えをなくすように心がけたい。欠席や、遅刻の子どもについては、ホワイトボード記載で職員間で共有できていたが、ケガや発熱などで早退した子どもについては、担任以外のクラスの職員が知らないことがあったので、ホワイトボードに早退とケガの子どもの情報を書くスペースを設け、確認する必要がある。

##### 2 資質向上のための研修について

園外の研修会には積極的に参加でき、保育に役立てられる知識や、技術を学ぶことができたが、研修報告を出し忘れたり、学びの共有が出来ていなかったりしたケースもあった。講師の園への招聘は予算と、時間の都合で招聘できなかった。講師を招聘しなくても、自園で課題に取り組む、評価をすることができたので、引き続き園内研修に取り組みたい。

## ●評価項目について

### 1 環境構成

自由遊びの時間に使用する玩具が通年通して変化がなかったため、次年度は、新しい玩具を準備して、楽しく遊びこめるようにしたい。また、園庭などの生き物の観察や図鑑などで生き物について調べたりすることなどは経験しているが、生き物の飼育を通して、じっくりと時間をかけていのちに触れる経験をしていないクラスもあったので、子どもの発達に応じた、生き物の飼育をしていきたい。

### 2 幼児への人権の配慮

昨今の保育士の幼児への虐待などが問題となっており、自園で改めて、自分たちで気が付かない些細なことも虐待になりうることを再認識し、子どもに十分に配慮して関わる必要を全職員共通理解して保育に取り組むようにしているが、再度、虐待について再確認し職員同士、気になること等教え合ったり、言い合ったりできる雰囲気を持していきたい。また、外国籍の子どもが増えているので、宗教上の配慮が必要な場面で、なるべくニーズに応えられるようにする必要もあり、そのことについて職員全体で共通理解し、細かなことでも報告し合うようにする。言語の面で、保護者とのコミュニケーションが難しい場面もあるので、理解しやすいイラストや、写真など使用したり、翻訳アプリなど使用したりして連絡していきたい。

### 3 資質向上のための研修について

受講した研修の研修報告を忘れずに必ず全員提出し、職員会議の際に学びを職員間で共有していきたい。

## 5.今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境構成	保育室の玩具の充実を図り、生き物の飼育観察ができるスペースを確保し、子どもが興味を持てるよう工夫し、飼育箱などを設置する。
2	幼児への人権の配慮	教師の言動が虐待になっていないか都度再確認し、職員同士お互いに気を付けるよう心がける。 また、外国籍の子どもの宗教的ニーズや、言語面でのフォローが必要なので、工夫して子どもが楽しく園生活を送れるようにする。
3	資質向上のための研修	受講した研修会について、職員会議で必ず報告し、学びの共有をする。

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・稲作りの観察を楽しく一緒にやってもらいうれしく思っています。
- ・園児たちはごあいさつをよくしてくれています。
- ・家に植えている花や野菜を見に来てくれ、私なりに説明をさせてもらい、子どもたちと接する時間を持って、感謝しています。
- ・子どもたちの成長を感じます。
- ・園児の活動の様子を見て、園長先生をはじめ、諸先生方が日々一人一人の園児をよく把握し、観察してご指導しているように見受けられる。また、園児が元気に楽しく園でのいろいろな活動に取り組んでいる様子も見られ、訪問者に笑顔で挨拶しているので、訪問するたびに園児の成長が見られ、それも楽しみです。
- ・豊かな自然の中で子どもたちが伸び伸びと生活しており、とてもいいと思う。
- ・自己評価で出てきた反省点の改善できるところは改善して次年度もよりよい保育をしていただきたい。
- ・子どもが体調を崩してお休みした後、回復して登園したとき。他のクラスの先生も声をかけてくれ、先生たち同士の情報共有ができているなあと感じました。
- ・園の教育目標である「感謝する子ども」に成長していると感じます。
- ・自然豊かな環境を活かし、四季折々の植物や生き物の観察を通して「いのちを大切に」することを1年通して学んでいる。
- ・田んぼの稲や園庭の草花を持ち帰り、園での出来事を家庭で話してくれる姿から、先生方が子ども一人一人を大切に関わってくださっていることが伝わる。
- ・友だちとの関わりの中で、順番を守ったり、譲ったりする姿が見られ、家庭でもその成長がうかがえる。
- ・季節に沿った、伝統行事やエコ活動、クッキングなど園行事が充実しており、子どもが楽しみながら参加している。
- ・保護者からの連絡や相談がしやすく、対応も丁寧で早いため安心感がある。
- ・週一回のクラスだよりは園での様子が分かりやすく、日々の様子を知ることができてありがたい。
- ・先生方が親しみやすく、安心して子どもを預けることができる。
- ・外国籍の園児への対応も丁寧で配慮が行き届いており、先生方のご負担の大きさも感じられる。